

## 昭和 54 年 2 月 26 日(月)

1 日で最も長い日誌を書こうとしている男 KUNNO (K. アンナに似ているね)

53 年は約 130 本程映画を見た。ワングル人は文化に関して無知が多いので、ここに観るべき映画を挙げる。  
No.1. 「サード」(ATG 東陽一) 森下愛子くんも出ているよ。

No.2. 「曾根崎心中」(ATG・増村保造) 宇崎さんも出てるのよ。

No.3. 「帰らざる日々」(日活・藤田敏也) 竹田かほりちゃんも出てるのよ。

この 3 本位は観ないと、若者とは言えまへんな。

では、洋画はと言うと、特に女性は

No.1. ” Julia” (フレンド・ジンネマン)

No.2. ” The Turning Port” 「愛で喝采の日々」(ハーバート・ロス) "Good-by girl" も作った。

No.3. An Unmarried Woman” (P.マザスキー?) シャーリー・マクレーン 年取りましたな。ウンチ踏んでしまったダンナ、弱々しくて良かったねえ。

この 3 本位は観なければ、「キャリア・ウーマン」にはなれまへんな。特に「Julia」のジェーン・フォンダは、女性の理想、極みでんな。ジェイスン・ロバーツも良かったですなあ。実は、僕、この映画、或る girl と一緒に観ましたんよ。だから、忘れられませんのよ。是非観てね。ワングルの女性の自立も近いでっせ。それと、梶芽衣子さんも良かったなあ。僕、東宝のシネマ 1 で彼女、観ましたんよ。素敵だった。ほんまにキレイでっせえ。

4 年 19th 海野和明

## 昭和 54 年 2 月 27 日(火)

くもりのち快晴一時雪

PART(1) by 海野

今年は雪不足のようである。2 月の中旬、10 日間程、東北地方を旅行したのだが、北へ北へと行っても雪がない。福島・宮城・岩手とめぼしいところを回ったが、雪が少なく、大きな都市の道路では、砂埃がたっていた。それでも漸く青森県に着くと、雪が在った。土地の人に聞いてみると、やはり例年の 1/3 位だそうだ。ここ妙高国際スキー場も、もう小川のせせらぎが聞こえている。第 1, 第 2 は、ここ数日で、もう滑ることは出来なくなるだろう。例年にない悪コンディションである。だから、少し滑ったら、信州路でも歩いてみようかと思っている。

僕も今年で、学生でなくなる訳で、3/12~17 には研修があります。その後は、引っ越しと卒業式が待っています。出来ることなら、もう 2 年ほど大学に居たか

ったけれど、学問は好きでないし、ブラブラしていても親が呆れるだろうから、社会人になります。で、結局「農協中央会」なる農業政策団体に入った訳だけど、その直接の理由も余りはっきりしていないのです。「銀行」へなんか行きたくなかった。強盗は怖いし、何と言ってもあの、背広をきちっと着て、毎日「お金を扱うことは、20 年以上やれないと思った。「商社」は、仕事がキツイらしいし、ペイもあまり良くない。と言うわけで、結局、大学のゼミを活かそうと思って(?)何となく、農業関係の団体を探して、それらしい所に入りました。「中央会」というのは、いわば圧力団体でして、「農産物価格を保証しろ!」とか「米価を上げろ!」とか「米を食え、パンは太るぞ」とか言う訳です。この「中央会」については、PART II で詳説します。是非読んでね。

小屋で一人きりの二日目の夜

MENU

- ・昨日の鳥釜飯を暖める。
- ・チキンスープ
- ・サケ缶 (パチンコの景品)
- ・紅茶 (ブルックボンド)
- ・オカカ
- ・ワイン

4 年 19th 海野和明

— PART II — 「農協中央会」とは何か  
~その全てをたった 10 分で理解しよう~

僕の卒論は「都市スプロール地帯における農業問題」という、総頁 100 頁に及ぶ大著であります。「スプロール地帯」というのは、大都市周辺地域における土地の、農業的利用と非農業的利用(工場・宅地)との無政府的な混在を言います。そこでは農業者にとって、マイナスとなるいくつかの問題が発生してきており、事実上、農業を営む事は不可能となってきています。そんな問題の分析をやったのであります。夏休みには、中村さんちの近くの「戸塚区和泉地区」の調査をやりました。

と、そんな訳で、僕は農業問題のオーソリティーなのでして、その誇りを何とか保とうとして「農協中央会」に入るわけです。皆さんには「ノーキョー」と言った方が、その感じが掴めるのではないのでしょうか。確かに「農協」と言うと、あの団体旅行と、米価値上げの時の大集会を連想させます。何処まで行っても、あのイモ臭いイメージは抜けませんが、その「組織の力」は日本一、いや世界一でしょう。その組織率は 98%ほどで、国労・動労・日教組など、相手にならない。所謂農協貯金というやつは、第一勧銀に迫っていますし、「農協の共済」は、日本生命を上回っているのです。この様に農協の力は大きく、いや、大きすぎて返ってデメリットも多く出てきています。その大きな農協に

は、「指導」・「政策」の仕事が有り、その頂点に立つのが「全国農協中央会」、所謂「全中」であります。（「委」は付かない）そして、その下には各県毎に「中央会」があり、その下に各農協があるのです。その「県の中央会」に、僕は就職する訳です。ここは、政策的な仕事が多く、半分は政治活動も含んでいる様です。勿論、保守の殿堂でして、中川農林水産大臣なんかも、中央会のバックアップも得ていたのです。

具体的には PART I で述べたようなデモンストレーション・PR・キャンペーン等とか、各調査統計の集計とか、企画だそうですが、良く分かりません。僕は、この農協に入ってですね、是非とも、あの臭いイメージを消して、時代に先端を行くような、グーな団体にしたいノデアリマス。ガンバリマス、ガンバッチミヨウ、ガンバッチャウネ…ほんとよ。

#### 4年 19th 海野

—PARTIII— —Movie— 1979.2.27 PM8:00  
僕が覚えている範囲で考えてみよう。

- 初めて観た日本映画：「かあちゃんと十一人の子供」  
渥美清・左幸子主演（近所の製茶場の倉庫で観た。それ以前にも、お寺の境内で三木のり平の映画を見たのだけれど記憶に無い）（勿論タダで、子供会の主催でしたかね。）
- 初めて観た外国映画：—ディズニー映画の「ダンボ」—  
—家族で見に行きましたっけ。
- 初めて観たポルノ映画：白川和子の「団地妻」だったかな。静岡のカブキ座
- 初めて名前を覚えた監督：市川崑（東京オリンピックで観たと思う）
- 初めて観たオールナイト：大学一年の5月、東京は新宿のロマン劇場で、確か4本立てで「地獄門」「私は二才」「おとうと」「白い巨塔」でしたっけ。大映の名画シリーズだったのよね。
- 一番遠くまで見に行った映画：「心中天網島」—札幌にて—
- これで病み付きになった一本：「ブーベの恋人」（クラウディア・カルディナーレがとても美しかった。相手はジョージ・チャキリスだったかな。静岡名画座、中学1、2年の頃でした。）
- 一番繰り返し観た映画：「けんかえれじい」7回（日活・高橋英樹主演。この映画には、現在巨泉のwifeである「浅野順子」が出ていまして、彼女の唯一の映画出演作品でもあります。）
- 好きな女優さん（これは1番はつけない）：No1・栗原小巻（忍ぶ川）、No1・藤純子（緋牡丹博徒シリーズ）、この二人がいいですなあ。でも小巻さんはオッパイが小さいのですわ。
- ・浅丘ルリ子（赤いハンカチ）、志穂美悦子（女必殺拳シリーズ：全部観た）

○もっとあるけど書き切れませんな。→でも書いてみる。秋吉久美子、八千草薫（前略おふくろ様が良かった）、岸恵子、梶芽衣子、佐久間良子（結婚する前）、泉じゅん、原田美枝子。

- 初めて痴漢と遭遇した映画館：今は潰れちゃったけど新宿のさそり座。（ここは、新宿文化の地下室みたいな所にあったアングラ劇場だったのよ。だから、ベンチが置いてあってへんてこなよ。隣のおっさんが僕の股をなでていたんよ。気持ち良かったなあ。）
- 初めて異性のおともだちと観た映画：“God Father”—静岡の有楽座で観ましたっけ。あの人は、すぐに別れまして、捨てられましたのよ。
- 初めて street girl に声をかけられた映画館：新宿の「昭和館地下」。ポルノシリーズを3本観て、ムンムンして出ようとしたら、ドアの所で、「あき竹城」みたいなスケベなおばさんに袖を引かれて、「おにいさん、遊ばない？ね」と言われたのです。びっくりしましたなあ。
- 一番好きな映画館：渋谷の東急名画座（1本立て300円。椅子がゆったりしていて、痴漢も僕が行かない限り出そうもない。安心して居られる映画館です。）

#### 4年 19th 海野和明

#### PARTIV

こんな静かな夜に、みんなは何をしているのだろうか。テスト勉強も終わったろうか。四年の仲間はもうどうしているのかな。先輩達は今日も一日働いていたのだろうか。僕は一人で山小屋にきています。ほんとに静かです。ストーブの燃える音だけが聞こえます。鉛筆のサラサラという音が聞こえています。今日話した言葉は、売店で「1日券ください」と、トロイカで「ナポリタン一つ」という、たった二言だけ。初めて静岡を離れ、あの二俣川の六畳のアパートにやって来たことを思い出します。テレビも無く、小さなラジオだけが有りました。あの頃は深夜の「走れ歌謡曲」を聞いたものでした。高校の友達みんな東京に行ってしまったし、僕だけが横浜で途中下車してしまったのです。「ほんとに四年も経ったのだろうか」と思わずにはいられません。淋しいと言うよりは悲しくなりました。都会にいても、この山小屋に居ても、やっぱり人は、自分の悲しさを、仲々消すことは出来なくて、だからこそ、誰かを求めているのです。とっとも小さな事でも楽しくなれる。それは特に誰かから与えられる場合には尚更です。

あんな沈滞した街から一步でも出ていこう。僕に何も言わない親父から逃れようと考えていた。あの一人の僕の部屋で。そして都会の僕の部屋で、やはり一人であった。みんな一人だった。ワングルの友も、東京へ行ってしまったあの人も、そして徳繁も。

僕はこの四年間で一つのことを知った。どこまで行っ

でも僕らは一人であって、そしてその運命的な”個”という救い難い悲しみを癒してくれるのは、もう一人のあなた、友、肉親、恋人でしかないのである。そして人は、すれ違い易いのだけれど。

人が人を愛するのは、自分が幸せになりたいからではないだろうか。僕は「人を幸せにしてやる」と思うことは無い。自分が幸せになりたいから、人を愛するのである。それはとっても難しいのだけれど。

ワンゲルと一緒に山へ登った人達ありがとう。一緒にお酒を飲んだ皆さんありがとう。僕はこれから良い人間になって、立派な夫婦生活を営みたいと思います。これからが僕の「青春 PART II」であります。乞御期待。きっと「駿河の星」となってみせます。

4年19期 (OBなりたて) 海野和明 (22才7ヶ月)

## 昭和54年2月28日(水)

晴

<本日の入小屋者

1年生の人達 (22期) 7人

・佐々木陽子(19才)・柳沢章博(20)・佐藤晶子(19)・酒井俊一(20)・山田美佐緒(19)・鴨志田岳志(19)・浅沼芳弘(20)>

—皆さん、それぞれ一言をどうぞ—

## 昭和54年3月1日(木)

雪がいっぱい降っています。

昨日の10:30頃、小屋に入りました。荷物が重くてリフトから降りられず、な、なんとリフトを止めてしまいました。恥ずかしかった。あのままだったら、リフトで又降りてきてしまったでしょう。降りれず「助けて！」と叫んだのです。幸い、後に誰も乗っていなくて、誰にも見られずに済みました。この間来たときとは、様子がまるで違って、道が全然判りませんでした。4年生が迎えに来てくれなかったら、私達1年7人は道に迷っていたかもしれせん。今日の人数は8人。人数が少ないと、小屋も家みたいで楽しいですね。突然ですが、今晚のおかずは酢豚です。やっとな、少し良いものが食べられそうです。昨日のお昼から、ラーメン、お雑煮、お茶漬、なんですもの。栄養失調になってしまいます。昨日の夜は、他の人達のお話を聞いていて、今まで分からなかった友達の一部が新しく分かった気がしています。もっとみんなと話がしたいなと思います。私は割と、その人のことを良く知らないのに判断してしまう事が多いのですよね。反省しなければなりません。私は未だ、ワンゲルの人達を殆ど知りません。みんなも私の事、きっとあんまり知らな

いでしょね。私は、話しするの、大好きです。遠慮なく(そんな人は居ないかも知れないけど)、話しかけて下さいね。あ、でも、あんまり… …面倒くさいかも わかんない。

遭難対策訓練合宿は、とても楽しい。昨日、ゲレンデで滑ったとき、雪の結晶を見ました。みんな”雪印””雪印”と言って喜んでいました。

では、山田さんのスキー上達を祈って。

又、私は書きます、毎日でも…さようなら。

1年22キ 山田みさお

今、寝る前の静かなひととき。天気図をとっている方たち(鳥井さん、柳沢君、舟本君)と私と(佐々木)陽子ちゃんの他は、みーんな寝ています。或いは寝たふり。明日は雪だそうです。雪降れ、雪降れ、積もれ、みんな埋まってしまえ。(夜も10時半を過ぎると、頭が”夜の思考”に切り替わってしまう。)でも、小屋の前の林は明るくて透明で繊細で、ちょっと素敵です。昼間、(山田)美佐緒ちゃんが言いました。「この林に入っていくのって、ちょっと、自殺しに行くみたいじゃない?」。自殺するなら何色の、どんな服で行くかと、1年4人で話し合いました。アハ。それでも誰かさんは70才、又誰かさんは65才まで、しつこく生きるそうです。小屋に来て思う事は多々あるけれど、小屋で一緒に何かをする”仲間”は素敵でしょう? 「周りの人間のエゴ」でしかないかもしれないけれど、仲良くみんなで ワンゲル をやっつけていきたいものです。色々考えることも、自分の道もあるのですが、一人また一人と消えてしまうのは寂しいね。

1年22キ さとう晶子

昨日、小屋へ来ました。雪の中の小屋へ来るのは初めてです。あの重いザックをヒューヒュー言って、エッチラオッチラ、スキーをして来るのは大変ですね。つくづく思いました。でも!一晩少人数(前頁参照)で泊ってみると、合宿の楽しさとは違った、静かな中に、ワイワイしたところがあって、とても楽しかった。話題も、仲々バラエティーに富んでいて、政治問題から(浅沼君は農協代表、海野さんはNHK解説委員の様な口調)昔の受験の話までいろいろ!そうそう、昨日は柳沢君が、この話の間中、みんなにいじめられていましたっけ。カワイソーに。と、今は言える。が、その時は結構楽しんでた私でした。

今、これを書いているのですが、消灯もとうに過ぎ、ナ、ナント!ランプの灯も寝てしまった!だから、これで終わりにしましょー。

1年22期 ササキ陽子

## 昭和54年3月2日(金)

朝になりました。意外に寒い。食当で忙しく働いています。と言うのはウソで、これを書けるほど暇なのです。タメトモ君とハナモト君、サカイ君、ハシオカ君 etc は、お餅を焼いています。正に、焼いているのです。マッ黒に焦がして焼いています。自分達がそれを食べないからって、本当にズブトイ！今、ヨコミゾさんが「全然焼けないよ」なんて言っています。何時になったらお雑煮が食べられるのでしょうか。一番はじめに焼いたのはガチガチになってしまうでしょう。それでも皆さんは、ガマンシテ食べてネ。

1年 22nd 佐々木陽子

## 昭和 54 年 3 月 3 日(土)

なんと「雛祭り」です。

本日の予定 — 気象・医療講習会は午前中で終われる筈が、なんか、午後のフリー予定時間まで、しっかり延びそうです。皆さん、頑張ってください。 山室

2年 21st 山室晴美

俺もボギーになりたい！（「なれるわけ ない！」）（ゴルフのボギーにはなれるだろうね。：UNNO）

1974.3.3 (アホ！5年もサバよむな。)

3年 20th 歌蛾加賀友視

”ひなまつり”だそうだ。西田雅典

朝7時上野発の妙高3号で入小屋したが、やはり早朝はつらい。一寸前までは朝寝、午後起きが週に2度はあったが、最近は何故か、朝起きれる。東京の昨夜は実に寒かったもので、もっと、妙高は雪が降ってるなあ！と思っていた。例年より雪は少ないが、流石に豪雪地帯だけあって、長野以北は、信越線から見ても、雪が随分積もっていた、里や山に。雪は久し振りだけど、電車から雪が見れるのは、やっぱり感激する。

小屋に4:00過ぎに入ったが、何となく人が少なく静かだった。10人。今、沢山、帰ってきて、夕食が出来そうで、今夜はカレーだそうだ。一寸、辛さが足りない気がした。明日は偵察なのに、今日はコンパだそうだ。まあ、早く寝よう。

3/1は、学校がロックアウトだったが、ゼミが予定されていたので、大学へ行くと、機動隊が200人程。例によって、集会やデモ等（当日は不当な学長選挙日）やろうとしたが、出来なくて、帰ろうとしたがそれも駄目で、大学に来ていた弁護士の人が、あれは「職権濫用だ」「告訴出来るよ！」と言っていた。

まあ、そんな又又激しい一時を経、昨夜は11:30AM頃まで、家庭教師をやって入小屋した。でも何か、国際のグレンデを見て、一寸滑ったら、眠さも飛んだ。

明日は良い天気になれ。

3年 20th 西田雅典

今日で合宿も終わり。いよいよ後はスキーツアー、良い天気になって早く行けたらいいのに。

ところで、4月になれば新入生が入ってくる。面倒くさかった食当も、計画書も免除、荷物も軽くなるし、楽になるでしょう。一年もそれぞれ自覚を持つようになるし、自由にやれる年になるのでは、と期待している。

一年間やってきて、このクラブの居心地の良さに身を埋めてしまって居るが、安易に日々を過ごしているのが時々怖くなる。緊張感を持つのは自分の気の持ち様だけど、仲々それは難しく、やはり何か大きな目標に自分を向けようとする。

僕の夢は、外国の山へ行く事であり、南極観測隊に加わる事。小学生の夢みたいだけど、夢は大きい方が良いから・・・だから、大学のウチにいろんな経験を重ねて将来に繋げてゆきたい。

もう一度クラブの問題に戻る。自分が、このクラブを最後まで続けてゆけるかは、この4月からやる事（クラブ以外）との関連で、不安は多いけれども、出来るだけクラブは続けたいし、クラブをより良いものに作っていきたいと思う。それには、他の人達の助力が必要だし、自分に出来る限り、人の為に尽くしたい。

ここ2、3年のワングルの活動は（中絶）

小屋日誌をパラパラと読んでみると、人それぞれの personality に感嘆し、様々なことを考えながら生きているなあ、と、大きい実感を持ち、私個人に対して自らどうかと思う。どうでもいいけど、流年在り留年になって欲しいのだけれど、ダメだったら数学の教師への道を歩まざるを得ない。

今シーズンの春休みはバイトで、とにかくお金を獲得し、どっか道場に入って見て、自分は未だ、どのくらいのガッツを持っているかを、早く確認したい。オールラウンドに力を出し切っていないものだから。この、力を出し切る事は、久しく遠くなっているのが実状であり、これをやりたいのも本音である。

最近関心を抱いているのは、心理学で言うとカッコイイけど、タダの通俗書を読んでいるだけなのであるけれど。

やはり、今頭にある事は、提出課題であり、それを終えたいという欲望もかなり強い。今更こんなのも変だけど、この小屋は自分を反省させるなあ。今まで、来たら必ず実状を見てしまって、大きい溝に入り込んだり、落ち込みそうになったり。どうしても振り返ってしまう。スポーツに対しての楽しさなり、面白さは、僕の marathone 以外には余り無いですねえ。スキーはそれなりの面白さがあるけれども。

下村君は今、危ないようなのだけれど、僕も危ないこと、間違いない。2年になりたての頃は、意欲満々で、1年の事なんて何のその、それも夏以前で、夏以降は自由降下。

こここのところ、ヨガを始めて1ヶ月になるが、体は確かに柔らかくなる事は間違いない。今、わざわざ横須賀へ通っているのだけれど、もう無理かな。近くで探して、無かったら、どうかな。

「力を出し切る」こと。出し切らねばならないと思うけど、仲々出来ないね。「力を出し切ろう。」余剰エネルギーを蓄えては、創造的な事は無理であろう。この小屋で、又新たな思いが胸を疼く。躍動する心臓。  
— 社長 —

3年 20th 水田徹

## 昭和 54年 3月 4日(日)

前のページは誰か、誰か？と考えた末、水田さんと決定いたしました。

今日で小屋に入ってちょうど5日目。もう髪の毛がおかしくなっていて、お風呂に入りたい、とみんなで言っています。

今日は午前中ゲレンデで、スケーティングと横滑りの練習をしました。仲々難しいものですね、スケーティングって。でも、早くスキーツアーに行きたい。面白そう。やっと、何だか乗ってきたんです。私。ここ2、3日、ずーと沈んでて、何を見ても思いつき笑いなくって…。これはどうしたものかと、悩んでいたのですが、やっと何となく地が出て参りました。何が原因でこんなだったのかは、私には分かっているのですが、ここには書かないでおきましょう。読まれてしまうから。

今日は4年生が5人も来ました。熊沢さん、脇さん、井上さん、白川さん、中島さんです。上級生が増えたので、炬燵にはもう入れないかしらと、思っていたけど、・・・今、しっかり入っています。

1年 22nd 山田美佐緒

3月4日 PM3:00

<4年白川、井上、熊沢、脇、中島入小屋>

合宿の喧噪に憧れ(?)、わざわざ皆さんのオジャマ虫となりました。仲々炬燵に入れなくて、隅で小さくおりました。久々に合宿の気分になり、我知らず現役の頃の自分に帰り、バカ話をしております。来年からこういう気分になることも、数少なくなってくると思います。酒を飲んで出る話題も、山から上司の悪態へと変わっていくことなのでしょうね。1年生を見ていると我々もああいう頃があったのかと、信じられない昔の様な気がします。と同時に、時の流れの速さと我が

身の切なさを覚える今夜です。

今日は酒もないので、存分に笑って疲れて寝るつもりです。初日なので余り筆も進みませんので。

4年 19th 中島輝夫

## 昭和 54年 3月 5日(月)

海野 (19期)

昨日、19期の友達が5人程入ってきて、一層、小屋が賑やかになった。彼等は、今日は1日券で滑るそうです。現役は、半分はツアーに行きました。今は、来た時と同じように、この小屋に一人です。バックにはFM東京が流れています。

久しぶりに好天となり、これで、たった一人で日焼けをしていた僕と同じように、みんな赤く火照った顔になってくるでしょう。

みんなが出ていった後、一人で掃除をしました。四年間で、掃除など余りしたことは無かったのですが、気紛れにやってみると、リフト券2回分と11円也を見つけました。昨日3回分のリフト券を落としてしまったので、あと1回分を見つけようと、隅々までキレイにしました。みんなも、小屋はキレイにしましょう。そしてリフト券を拾いましょう。それから、机の上には自分の物は置かない事。非常に見苦しい。

これからもう少しノンビリしてから、ゲレンデに出て、19期のみなどと、某食堂にて、楽しく食事をする予定です。

4年 19th 海野

海野さん、掃除、御苦労様でした。

小屋に一人で居るのは、何とも言えない感じがあるなあ。レポートもほったらかして、一切捨ててきた下界のことが、頭の中に次から次へと浮かんでくる。下に居た時の様に自分を飲み込んでいた、あの感じは無く、何か遠い世界の事の様だ。岩崎君は「小屋に来ると、内省する」と書いているけれど、僕にとっては、今まで執着していたモノがフワーと離れてしまって、身体が軽くなった様な気がする。とにかく、ここの禁欲的で静かな生活は、健康には良い事は確かだ。慢性的な鼻風邪も良くなったし、しばらくはボケーとしていよう。

2年 21期 中川

午後1時54分 21st 山夢路

一今この小屋には 3人+1人 計4人

前3人は、小屋に在ったインスタントラーメンを作って、サンドウィッチも作って、ホーローでリプトン紅茶を飲む。朝9時からこなべちゃんの遭対訓練を五隊リーダーカゴ君とサブリーの私とで一時間過ぎまでシブ

タニ橋でやった。しかしながら、何という良い天気だろう。妙高が美しくも厳しい姿態で目前に迫っている。本当に 妙高山 好きだ。

一遭難対策合宿も無事に終わってしまった。今日はスキーツアー先発隊が笹ヶ峰へ行っている。と言っているうちに、早くも帰ってきた隊がいる。今のところ予想通りに全て運んでいるけれど、明日は低気圧の接近が気になる、どうかもう一日、天気 もってほしい。4時の天気図を又取ってみれば判るでしょう。加賀さんが、” 絹雲がいっぱい出てる ” と、不吉なことをつぶやいた。そろそろスキーを中に入れてワックスでもかけよう。

一では、ペンを西田さんに渡しましょう。

**2年 21st 山室**

**2:30 PM 20th 仁志 馱**

一今、この炬燵には、二人十一人 計3人、後一人はテーブルに有ったツナサンドを食べて、煙草を吸って、メンツでリプトン紅茶を食べる。午後 12 時から藤倉君と岩崎クン。

一突然ですが、夏合宿も無事終わってしまった。明日はスキーツアー後発隊が笹ヶ峰へ行く。と言ってるうちに早くも、シールを着けてる人が居る。

一では、ペンを西田さんに渡しましょう。

3年西田(20)

☆今年も、黒姫山に行きたいもんだ。横溝・溝畑・鳥井・1年生・新1年生を沢山、駅から黒姫ピークまで連れていけ。駅から登り、5hrs、夏でも涼しい黒姫ピーク。冬は暖かいだろう黒姫ピーク。黒姫～小黒姫の鞍部は、テン場には絶好。水は大池でとれる。クマザサと七ツ池。夕方は、真っ赤に、海側の山端。山際が映える。広い鞍部にテントが一つ立って、そのテントを含む風景は、別天地の様だった。登山口から日出岩・七曲りあたり、一寸登りが辛い。頂上付近まで行くと、深い樹林帯のムード、ピークは開けて、戸隠方面はよく見える。

**3年 20th 西田**

黒姫派の西田さんに対抗して妙高派を集めたい。あそこは秋が良いと思います。また外輪山のために湿原が広がっている。黒沢池や高谷池の天狗の庭もまた秋が良いでしょう。あー、いい加減でワックス塗りをしなければ。

**3年 20th 石垣秀敏**

**昭和 54 年 3 月 6 日(火)**

朝 8 時前、 **20th 英知愛**

今、スキーツアーの後発隊を送って、炬燵では朝食を待っている人間がゴロゴロ。さあ、飯ができた。只今から炬燵での会話集。

その 1. 佐々木「横溝さんて成田さんが居ると、話が弾むんですね！」

ヨコ「 (中断)

**3年 20th 石垣秀敏**

**9:27AM**

入小屋 3月4日 出小屋 3月7日 (予定、いや決定)

まず入小屋の遅れた理由、何と言っても、あの鬼の 20 日間だ。

=この間、林・佐々木・佐藤と話し込んで、今 12:10 =

山下公園の話から始まって、my book、物理、宇宙、戦争、歴史など (恋愛の話など、ちっともしなかった)。最近の 1 年生の思考回路は複雑多岐に渡ると驚嘆している次第です。僕が 1 年の頃は、こんな話し、ちっともしなかったなあ。僕達が小屋で炬燵に入り、音楽を聞いて幸福を感じている時、反面世界は聞きに満ちている。そして自分の持つ (狭い) 幸福と、世界の危機の中で、これからの人生は、どう生きるのだろうか。今、暗中模索である。

常に向上心だけは捨てたくない。知識欲・行動欲・moral、真実を見る心。青春の観念は現実 (生活) に勝つか。(これは 柴田翔の書いた本のテーマである) この問題はすぐ、自分に身にやってくるであろう。

**3年 20th TM 水田徹**

**12:24**

さて、頭を転換して、元の話しに戻ります。今はもう嘘のようだが、” 鬼の 20 日間 ” は過ぎて、2/9 から始まって 2/27 に終わり、それから 3/1 迄まだ忙しく、3/2 に故郷に帰る。一日遊んで、小屋にやって来たのは 3/4。てな具合。

スキーツアーでは雪合戦(ゲリラ戦が功を奏した)で、肩を痛めて、今一字を書くのも億劫である。

明日、3/7 昼頃、家に帰ります。今年再び妙高の雪を見るのは多分、12 月頃になるでしょう。4 月には元気な顔で会いましょう。(岩崎宏美…この木の下で又会いましょう)

**3年 20th TM 水田徹)**

スキー tour 後発隊に、半ば居候の立場で参加したが、やはり、tour は感激が大きい。今後毎年行きたいと思うが…。

広々とした雪原。晴れ渡る青空。深々しい緑。延々と延びるシュプール。シーハイル。――。

今は最も楽しい時かもしれないし、空しいときかもし

れない。”楽しい”とか”幸いである”とか、”空しい”とか”飽きた”とか、”つらい”とか、そんな感覚的な意思表示は、その境涯に於ける、周囲の環境、その刹那の心情、それを含めた諸条件によって規定されてしまう。だから、感覚的な意思表示、つまり感情（の昂揚）は、瞬間的なモノに過ぎないのだと思う。問題は、それを決定する本質、人格。狭義の表現をすれば、信条、瞬時（ある程度、連続性を持った）人生観になる。認識とか、理性とか、時間とか、真の美しさ、つまり形而上の思考をする事が、人間の特性に他ならない。そして、大学又は学生という時代は、かの大老師（Lao shi）が語るが如く、20才過ぎの理性の時代にあるという点から考えて、そんな認識、人間の神秘、更に進んで、社会性つまり現状分析及び古典研究により、現在の既存のモラル、価値観を新たな角度から見直し、文化を、自治を、新価値基準を創造する場なのだと思うし、その時代であると思う。だから、そんな人間を、社会を対象として、自由な立場で、視点で、自己主張できる、いや、すべき時、場は大学に他ならない。Y WVお活動の中から、そんな認識及び新しい価値観、視点を発見して欲しいと、僕は思う。でなければ、Y WVは単なる合宿グループ、Meeting会になるほか無くなってしまう。文化的云々。それは、形式ではいけない。僕ら、いや、僕は文化的テーマを、部則の前文に入れようとし（一度は部会で非難を浴びたが）たのは、形式の文化的テーマにして欲しくない事を言いたかった。Y WVは Wanderer の集団である。Wanderer とは何か、定義は困難かも知れない。しかし、”思考する Wandering”を営み、それをより一層普遍化する方向で、つまり、瞬時の感情の昂揚で終わらせずに、何かの精神的基盤にまで高めてゆくこと。それは、他ならぬ社会の既存のモラル、価値観への対抗、批判、改革である。裏付けのない社会批判はやめろ！有事立法が何故おかしいか？ 元号法制が何故変なのか？ 大地震、特別法案、弁護士抜き裁判法案、成田新立法、それらは何故、どんな方向のうちに問題性が見いだせるのか？ しっかり学ぼう。学ぶべきだ。古典だ。しっかり現状を分析、研究、知った上で十分根拠ある批判をすべきだ。無責任な発言、批判はやめよう。勉強せぬ者は、批判する資格のないことを、肝に銘じなければならない。それは良識を外さぬ事だろう。自分も一層勉強せねばならない。無関心、無責任、無気力を一掃しよう。一般に、非法法が合法化される傾向が今、ある事を、まず具体的事例から知ってゆこう。流されてはいけない。今、いかほど憲法の基本精神が、日本に貫かれているか？憲法を理想として、形式的民主主義に甘んじるのは、Y WVに於いて、審査会事項を、そして部則を軽視するのと同じだ。二人の社会であっても、二人を束縛する契約一法が

成立する。それは規模が大ならば、現実的視点云々で仕方がない…。とする見解は、やはり間違っている。それが既存の価値観の最大の、根本的な誤りだ。せめて、いや、それを一つの基礎にするように大学で、真理を、認識を、良識を学んでおくべきだ。結局、人間を滅ぼすのは、その中にあるエゴイズムであり、憎悪である。それは、その時々で左右されてしまうものだと思う。中にある、滅ぼす力を、自ら、消すべきだ。自由な大学で。まず行動、勉強しよう。 over  
3年 20th 西田雅典

遭難対策合宿、スキーツアーなど、一応日程は終了。後は一日滑って帰るだけだ。ところで人間の生き甲斐、幸せとは一体どういうものだろうか？ 誰でも自分の将来の夢があるでしょうが、それを果たそうとする時に、今の道を捨てなければならなくなったら、どっちを選ぶのだろうか？特に、今の道も捨て難い程、魅力のあるものだったら…。今の僕は、多少の犠牲があっても、自分の夢を実現するつもりです。今の幸せというのは、仲々捨て難い。でも、それに惹かれているだけでは、これからの自分もダレてしまいそうな気がする。どちらの選択が正しいかは自分も判らないし、人も分からないだろう。この際、自分の判断を信じるしかない。

22期1年 マル舟 舟木京太

時は流れてしまい、人間は過去を取り戻すことは出来ない。こんな当たり前の事を今になって初めて分かりました。この4ヶ月間、就職が決まってから、今迄には考えられなかった色々な経験をしました。そして自分の大学生活を振り返った。自分のやってきた事には全く悔いは無い。でも、自分のやれなかった事が、この時期になって急に重く感じられます。嘗て先輩が「自分のやってきた事を信じるしかない。人生は一度なのだから、その時点時点で思った事をやるしかない。信じるしかない。あの時ああしていたら今の自分は…と考えても仕方ない」と言いました。自分もそう思う。でも、それこそ一度切りの人生ならやっぱり、もっとああすれば…と後悔します。繰り返しますが、自分のやってきた事を後悔するのではなく、もっと、あの時、この事をやるべきだったという事です。本当に取り戻せない。やはり「これから」しか無いのでしょうか。自分のやり残して来た事は全て、これからやらなければならない。人との出会いや別れは何回も経験しているはずなのに、今回だけはちょっと複雑です。大学、いや、学生生活を卒業する時期だからでしょうか。別れによって色々な事を考えた。自分とは全く異なった大学生活を送った人達が居る、という事がショックでした。「疲れ果て

た貴方は、私の幻を愛した。」という歌がありました。似た事を云われ、似た事を感じました。――随分青臭い文章を書いているなア。もうやめましょう。過去は過去です。人との別れだけではなく、所謂活動をやっている人、その他様々な人々と真心を以て接せられました。この数ヶ月間。それらの人々との出会いを大事にして、これから生きていく積もりです。18才の頃を思い出します。「決定的に他人と結びつかない事への誇り」を信じ、実践しようとしてきた僕は、今、この時期、そしてこれ以降、それをやめようと思っています。

今晚この小屋で歌っている後輩諸君。どうか頑張って下さい。クラブ一筋ではなく、自分を高める為に。「頑張ってくれ」としか言えない自分が情けなくもなりますが、どうか頑張って下さい。他人と自分の両方を大切に。 19th 3/6

ps この数ヶ月間、何人かの人々に対してとった言動、行為の幾つかを深く反省します。

#### 4年 19<sup>th</sup> 山狂痴人

今日は笹ヶ峰へ行って来ました。明日は三田原です。山は好きです。初めは何も知らなかった、唯自然の中を……して事だけに憧れて、山に行きたかっただけです。それから3年経って、あんまり山に登っていないのに、山のクラブに入っていた、と言うだけの事で何となく、一人でも山に登れる気がしてる。山に行きたい、いつもこう思う。自分で登りたい。連れて行って貰うのではなく、自分で登りたい。いつもこう思いながら、けど結局、連れて行って貰ったという思いだけ残して、降りてくる。山は良かった、楽しかった。けど……いつも けど…… が付くのに、懲りずに登ってきた。これからはこうして登って行くのかナァ……と思うと、いっそ山なんて止めちゃおうか とも思うけど、やっぱり、山に登らない日が続くと、登りたくなって、トレーニングしたり、天気図書いたり、ガイドブック見たり……いつかは心の底の底から幸せを感じて降りられる日が来るかも知れません。そう思って、これからは少しずつでいい、勉強しながら登るしか無いんでしょう。やっぱり、山は好きです。

やっぱりこの時期は、いつもより少し、モノを考える様になるみたいですネ。これからは自分を見失わないように、一生懸命生きていく事しかないみたいに思うのですが。

#### 4年 19キ くま 熊沢智子

明日横浜へ帰る事になりました。最後に少し書いて行こうと思います。何故帰るかというといろいろあります。その一つには、高校時代の友達と何処かへ行く予定があるからです。ワングルなどで色々な先輩や友人が出来るでしょう。でも僕は、高校時代、共に色々な

経験をし、一時は停学寸前までいった事もあるようなこともした、あいつらと少し話をしたいのです。忘れたくないのです。彼等は2浪し、やっと、この4、5日の試験が終わり、きっとあいつらは僕に刺激を与えてくれるような話をしてくれるでしょう。とにかく僕は、自分と出会った人達を、粗末にしたくないのです。昔を思い出して吉祥寺を飲み歩き、あいつと又「玉川上水」にドボンと落ちてみたいような気がします。ただそんな気がするのです。それが嬉しいだけです。では、小屋に残る1年女子（+オカマのカモ）スキーうまくなれや！

#### ※玉川上水

東京北部に流れる人造川で、今は水が少なく、僕が落ちた時は、ズボンがズタズタになったのだ。

#### 1年 22nd Tame 山本為朝

雪の中 一人の男が山に帰って行った  
ただ、それだけの話じゃ **naika**  
あわただしい季節の中で  
花束投げたあの娘の言葉が  
こだまして帰ってくるけど  
雪解け水の音に消されて  
また静けさが訪ずれる

だからもう忘れちまえよ  
あんな奴のことは  
こんな可愛い人を残して  
一人で行くなんて  
春が来たら去年と同じように  
また山で迎えよう  
※それまでにきっとあいつの得意だった  
歌を憶えておくから  
(※繰り返し)

#### 22期 KF

(「あいつ」…in”風” first、or、”イルカ” first )

#### 1年 22nd 舟木京太



## 昭和 54 年 3 月 7 日(水)

昨日はコンパだったのに、今朝は 6:30am に目が覚めた。というのも、かの横溝氏がいち早く活動しているからである。一番可能性の薄い人が…とビックリして目が覚めてしまったのでしょうか。今日、彼は北陸へ旅に出掛けるとか言っていますが、果たして如何。昨日のコンパはひどかったですね、酒は少ないし、買ってくるとか言って、得意の溝畑氏、立浪氏、津江氏が出掛けていきました。仲々帰ってこないのですよ。おかげで、酒は醒めてしまって、何となくホワイトキック！ 3人の生命の安否が気遣われてきて、何となく一部の人がソワソワしました。もっと書きたいのですが、仕事が出来たので、この辺で。

22th1年 りん (林秀樹)

19期 K. UNNO

今日でもう 10 日目になった。4年生にもなって、10日以上もなえな小屋に居座っているのは僕くらいのもので、つくづく「ヒマジン」だと思っている。(今、あのド怠慢の山崎が紅茶を入れてくれた)

もう明日は山を下りて、十日頃静岡に帰ります。12日からは、御殿場の国立青年の家で研修があります。

ところで、幸か不幸か、その研修所で、同期の白川君一緒になるのです。彼もTDAの研修があり、それが僕の研修と重なるのです。研修所では二人とも知らん顔をしていようと決定しました。僕らの、この爛れた過去を少しでも隠そうということです。今までの乱行が、チラリとでも、上司に分かったならば、もう昇進は望むべくもなく、つらい 30 年間となってしまう訳です。絶対に「真面目な社会人」になる為に、猫をかぶり続けます。

(ps) いつも小屋ノートと言うと、バカなことばかり書いているのですが、最後に一つ、真面目なこと。

1. 小屋ノートは、読んだら棚にしっかりと返しておきましょう。
2. ノート(日誌)には、必ず書いた人の名前を書きましょう。また、(期)を書いて、ペンネームを書いておきましょう。

今まで、大学生活の中で、大きな位置を占め、多くの歓びを与えてくれた Y.W.V の皆さん、本当に有り難うございました。僕の今までの悪行をどうか許してください。深く反省しています。

これからも山を愛し、Y.W.V を愛し、みんなの思い出に残る、素敵なクラブ活動を続けてください。

皆さん、又いつか会いましょう。会った時には、どうか避けしないで下さい。そして「ごんぬずばー」と言って下さい。

とうとう最後まで、バカの連続でした。ごめんなさい。そして「さよなら」 1979.3.7 (水)

4日に入小屋しました。今回は短期間でビンビンに滑って技術を向上させる積もりだったのですが、4日は全く滑らず。5日は快調、6日の午後からそろそろ疲れが出始め、今日は惰性で、数回滑っただけでした。1年の頃のあのガッツは、どこにいったのでしょうか…?

ところで、後 20 日余りで、いよいよ社会人でありませぬ。(正月の時も、こんな事を書いた様な気がする) その間に引越しの準備をして、もい1着背広を作って、学校にも顔を出して…だるい事ばかりです。

それでは、今度こそ本当に、皆さん サヨナラ!

冬にはまたスキーをしに来たいと思っています。

4年 19th 井上晃

今日は三田原に行って、散々疲れて帰って参りました。久々の本格的山行は老体にしみじみ堪えました。しかし、ピークを見上げ見上げ歩くラッセルは辛いですが、ピークからのド快晴の眺めが、全てを清算してくれます。

今回はあまりゲレンデスキーをせずに、明日帰ります。スキーの上達が芳しく無いのは心残りだけでも、山へ行けた事で満足です。これからもちよくちよく小屋へは出掛けてきたいし、その節は皆さん、迫害なさらないで下さい。今度来る時は、炬燵人間から脱皮して、ママ人間に移り変わろうかと思えます。4月(?)からは必然的というか強制的に、人格的刷新が計られるのではないのでしょうか。4年間、この小屋に来て、23才の小屋は初めてです。自分の歳がゾロ目からひとつ越すと、いつも以上に年を取った気がしてきます。来年は24才です。来来来来来年は28才です、10年後には33才になります、きっと…。

これからも前途有望な青年に熱いまなざしを。 19th 中島

三田原山行記録

小屋 7:30-8:20R18:35 池の峰手前-9:25R29:35-10:45R311:00-11:45R412:00-13:00R513:45 ピーク-16:35 林道-16:45 小屋

L 中島 19th♂

SL 白川 19th♂

M 熊沢 19th♀

入口=池の峰の第1尾根の2本手前の沢筋に沿って樹林帯を直進する。最初はたるい平坦な登りを、ブッシュを縫って進む。1500m 付近から急峻なブッシュの登り、まず最初に顎を出すところ、100m 位登るとまた緩い登りになり、休み間もなく急登が続く。1900m 付近からヒマラヤ杉の林に中を縫って進むようになる。この辺からは、それ程ブッシュに悩まされなくなる。2200m 付近からは見通しも良くなり、ピークへ向かっ

て直進する。かなりカッターイが快晴時には、仲々気持ちいい。是非とも皆さんもトライしてください。

#### 4年 19th 中島輝夫

僕は滅多にモノを書かない主義なのです（本当は、書くところいろいろ出てくるので）が、明日帰るに当たって、どうしても書かなければ、帰るに帰れない事があるので、敢えて書かせてもらいます。

最近、クラブ内のごく一部で、僕のことをオカマだとか言ってるようですが、それは非常に大きな誤解です。皆さん、デマに惑わされないようにご注意下さい。本当に僕は、男より女の子の方が好きなんですから、なんちゃって。

スキーと言うのは非常に難しいもんですね。回りのみんながとても上手なので、もういじけてしまいますよ。自分で、自分の駄目な点が判っているのですが、理論と実践は別物なので、全くイライラしてしまいます。でも、スキーというのは面白いもので、病み付きになりそうです。明日朝、滑ったらもう当分滑れないと思うと、帰るのがいやになってしまいます。しかし、家庭教師のバイトがあるからには、帰らねばならないのです。職業意識に燃える、オカマとは縁遠い Kamo (22nd)

#### 1年 22nd 鴨志田岳志

今シーズンのスキーも明日で終わり。9日、10日は、一人信州を回って、これからの自分の身の振り方を考えてきます。

信州には小さい頃から縁があってよく行くのですが、八ヶ岳を眺めながら、左千夫・赤彦・茂吉などの踏み跡を歩くのは、心が静まりとてもいいものです。

本はあまり読んでいない癖に文学（特に日本の）が好きで、殊に、短歌、俳句など日本独自のものに惹かれています。短い言葉の中に、気持を最大に表せるなんて、本当に素晴らしい事だと思います。人と話していて、自分の思うことが仲々言えない。或いは、うっかり気分を乱すような事を言ってしまったりする。そんな時、人と付き合う事に億劫になってしまいます。孤独志向なんて所詮、社会に対する逃げかもしれない。

ただ、居心地の良い集団に居るのは、うっかりすると自分を弱くすることに繋がると思うのです。話が急に違って来たけど、僕が常に何かしようとしているのは、そういう恐怖があるからです。

話が分からなくなってきたので、今回はこれで終わりにしましょう。冬の山小屋、さよなら。

#### 1年 (22期 K.F) 舟木京太

PM. 10:03

今日帰るはずだったのですが、帰り支度をするのが面倒で、結局明日帰る事にしました。今、4年生・3年生と一緒に炬燵に入って、お酒を飲んでいるわけです。

が、話の内容はもう…で、疲れてきました。階段の所でこの日誌を書いているのですが、ローソクの灯りを頼りに若干酔い心地で、やっと肩に荷が下りた様な気分になっております。

先程、小屋の外に出て、町の方を見たら、町の灯りが懐かしく、もうそろそろ下界へ戻らなければいけないような感じがした。いつでも思う事だけど、この小屋から町を見るといつまでも、現実から遠ざかっていたという気持と、早く現実に戻らないと、ひょっとしたら、その時、全てのモノ、コトが昔とは全く異なっていて、自分を受け入れてはくれないような気持に、錯覚してしまうようだ。

スキーツアー・遭難対策合宿、無事終わって良かった。

1年前、スキーツアーを廃止しようという意見に、小屋日誌の中で反対していたのが懐かしい。また、4年生とこうして話していて、これからの2年間が見透かされている様で空しい気もする。とは言っても、これからの2年間は、自分が考えている程、甘いものでは無いけれど。

これから春合宿まで、余り日はないけれど、その間、あの部室でみんなに会えないのもほんまに寂しい。これから下宿に帰って、下宿と学校の間を往復するのかもしれないと思うとゾットする。おまけに、家庭教師。こういうことは置いて、自分がこれからしたいこと。

3月 製図の完成と春合宿

4月 (ハトマーク)、これからやろうと決意する。

5月 6月 本と映画をいっぱい読んで、観まくりますよ。

7月 夏合宿

8月 pwと(ハトマーク)(pw鎌倉)

9月 気落ちしないで試験を頑張ろう。

10月 暇さえ有れば鎌倉へ傷心 TOUR.

11月 この頃から、立ち直って、勉強に道を求めてみようかな。

12月 慌ただしい毎日、火には気をつけよう。

1月 正月に同窓会をして、気後れした気分で横浜に帰ろう。

2月 ひょっとしたら、この時期が自分の人生を決める頃かも…。

明日、帰りますよって、後の方はよろしく。皆さんも残り少ない春休みを精一杯楽しんでくださいませ。

ほんまに暗いので、字が乱れてしまって、どうもすみません。

#### 2年 21期の Y.Kagohashi 籠橋泰憲

三田原に参加した一人。常に常に遅れながら、やっぱり感動してピークに立ちました。身体はやっぱ、昔よりずっと疲れているのに、精神的にはずっと楽でした。一歩でも進めば、ピークに一歩近づく！ 反対に、進まなければいつまでもピークには着かない。こう思

うと、頑張れる。山は本当に好きです。小屋も好きです。何回来ても、いつも新鮮です。その度に違う楽しみ方をしています。今回は「山」に決めて来ました。楽しかった、今回の山小屋も。また次、来る時は、また何か目的を持って来たいと思います。お世話になりました。

4年19期 (←ニャニャ島さん) 熊沢智子

## 昭和54年3月8日(木)

1979年3月8日、多分こんな感じの山を背にして、あと十代も、余すところ4日になってしまった。(「層雲によるモクモクガス」の上に顔を出した妙高の挿し絵：略)  
できあがりかズングリしたので失敗。ひとまず小休止。

今日帰ります。遭対・スキーツアーetc、アツという間の8日間でした。20才と1週間、20才の重さがずっしりと感じられる日々です。何か今までの20年とは少し違った線路に、いつの間にか乗り換えている自分を感じます。1年前の自分を振り返ると随分と変わった様です。いろいろと我慢したり、突っ張ったり、自分らしく無いことをしたり、してきたーそんな気がします。そんな自分に若干の疲れを感じてきた今日この頃。自然に生きたいと思います。しかし、最近小屋に来るとどうも”うつ”になってしまう。多難の20才を感じつつ…いろいろ悩んでいるうちに、青春も終わってしまいそうな気がしなくもありませんでした。身近な親しい友達の温かさが恋しくなっていました。支離滅裂でおしまい。

21<sup>st</sup> in the mountain?女

今日帰ります。  
何回か小屋に来たけど、今回が一番、歳を感じました。笑いに着いていけない自分を感じてました。前は一緒になってどんな事にも大声で笑った気がします。若さが無くなったのか、大勢でワイワイするよりも、薄暗い中でしんみりと、じっくりと話をするのが好きになりました。小屋から帰ると、やはり就職の事を考えるのでしょうか。そして卒業して、仕事を始めて…。今は『終わる』事への淋しさと、見えない未来への不安で、気も沈みがちです。けど、四月からはきっと、子供達と明るい太陽の下で、大声で笑って、走り回って…。あと20日余。大切な時なんだと思います。16年間の学生生活は、本当に楽しかった、幸せでした。そう言い切りたいと思います。お世話になりました。

4年19期 Kuma 熊沢智子

晴

今、小屋にはたったの12人。それぞれ炬燵を囲んでお酒を飲んでます。人数の少ない小屋って、やっぱりいいものですね。

私が今回小屋に入ったのは、2月28日の朝でした。その時は8人。やっぱり、もっと静かで、一つの炬燵でした。今日は午後から、この12人の人達と、ゲレンデを大暴走しました。みんなで連なって滑るんです。私のような下手な子と、上手な3年生とが一緒に滑るんですから、まあ、いろいろと大変でした。でも、とっても面白かった。良い思い出になります。

私は小屋委員でした。お金を集めたり、大変でした。でも、この小屋が大好きです。小屋でいろいろ働ける事を、嬉しく思いました。協力してくれた皆さん、どうも有り難うございました。また5月にも、小屋に来ましょう。1年生を連れて…。

2年になるんですね。私達も。最近、そういう事ばかり考え、話しています。不安な反面、2年になるのが楽しみです。みんながどんなになるか。オカマのカモ君が、どんな1年の男の子に恋をするのか、楽しみです。

明日(9日)、夜行で小田原に帰ります。こんな長い間、小屋に居たのは初めてです。10日間です。楽しかった、本当に。10日の朝、家について、それからグッスリ寝て、夜、家庭教師に行きます。それから10日間、この1年間の事、これからの事、考えたり書いたりして、本読んで、浪人の友達の合格を祝って…。やりたい事はいっぱいあります。そして、20,21,22日には、丹沢のpwに行くのです。小屋で審査会をやりました。仲々大変な山なのです。ワンゲルの上限に近いと言われました。トレーニングです。ガンバレ。そしてそして、待望の春合宿ももうすぐです。

最終下山日、”坂本”に降りた時、”私は、この1年間、よくやった”と、思いたいと思います。どうか、思えますよーに。

最近、1年生の中でも、複雑な話が飛び交い、特に小屋に来てから考える事が多いのですが、みんな、折角知り合ったのです。お互いを大切にしたい、そう思います。これからも頑張って、ワンゲルを作っていきます。では、オヤスミナサイ。また、大好きな小屋に来ます。皆さんお元気です。

1年22キ 山田みさお

夜。  
今コンパをやっています。僕はホワイトの水割り程度良く酔ってます。今日、ムロさんは通算8杯のご飯を食べました。今日西田さんは、夢の話とか、高校時代の話とか、いろいろしてます。ああ、なんと僕はバカな事を書いているのでしょうか！ もう書くのを止めた方が良いでしょう。ではまた。  
それにしても、やっぱりさびしいなあ…。

同夜

結局、歩く以外には無いのだと思います。何かを目標にして（どんな小さなものでも良い）ひたすら、その為のみ、毎日を力一杯やる事だと思います。目標の大きなものが理想と呼べるものかもしれませんが（理想は大切であるし、それが無ければ人間としての生き甲斐は皆無になる）とにかく、現在を、今の一瞬をどう歩くか、だと思います。何を言っても、何を言われても、自分の思うとおりに、ひたすら歩き、生きることです。生きることは、働き、歩くことです。モータリズムは、その\*\*\*故、ナンセンスです。だから兎に角、働くことです。身近な目標に体当たりでぶつかってゆくことです。

11:40pm 3年 20th 西田雅典

## 昭和 54 年 3 月 9 日(金)

午前 1 時半

今日、買い出しに行っているいろいろ買ったが、小屋についてから、玉葱を買い忘れたことに気付いて、サンアントンへ行ってみる事にした。お婆さんは気持ち良く出してくれ、いくらお金を払おうとしても受け取らなく、「いいから、持って行きなさい。早稲田の人達と同じように、国大の人にもよく利用してもらっているから」と言われた。何だか帰るに帰れず、やはりと思って 200 円だけ受け取って貰おうとしたら、「ビスケット、持って行きなさい、それならいいでしょ」…どうも有り難う！昨日、従業員用のお風呂にも入れて貰ったし、おかげでサッパリしている。今、4、5 人の人達が外へエールをかけに出ている。何故か私は、そんな気持ちになれずに、独りぼっちで小屋の中で起きている。もしかして今が 1 年前だったら、喜んで外へ飛び出して、大声で歌いもしただろう。今からでも、外へ出て声を出したら、気持ちいいかもしれない。でも、今はロウソクの明かりの元でじっと息を殺している方がいい。刻一刻と現実に戻る時間、杉野沢からバスに乗る時間が近づくのを山小屋の中で、小屋の中で感じていたい。

無性に恋しい恋しい。せめて心だけでも 1 年前に戻りたい。1 年前に戻って、もう一度、自分の流した涙を拭きたい。3 月になる度、思い出さだろう。リフトが止まってしまった日、丁度入小屋の朝、重い荷物とスキーを小山で担いで登らなければならなくなった日。1 年の女子だからだろうけれど、小屋から迎えに来てくれた先輩の為に、歩荷量が少なく済んだ。ひとまず第 2 リフトまで、雨が横殴りに降るグレンデを一步一步。あの時、どうしようもなく情けなかった。他の人に合わせる顔が無かった。どうして？私にだって自

分の荷を全て背負う権利があります。持てます。やっとなと第 2 グレンデに着いた時、雨と涙でクチャクチャの顔。悔し涙…。それから数時間後、ビチョビチョで小屋に辿り着いてから、またその後、うれし涙を流すとは思いませんでした。バカな自分は、随分後になって、あの思いやりに気付いたなんて。モンブランで泣きそうになるのをこらえながら、荷物を自分で持つ事を頼んだ。「心配するなよ。お前にはじゃあ、別の所でしっかり働いて貰うから」そう言ったあの先輩の顔が今でも目に浮かぶ…。

夕方になると左足の膝がしんしんとして痛い。懐炉を当てて、自分で保護してやっている。膝が痛むのと同様に、たまには心だって痛みだしてしまうのだ。これから 2 年間、本当に悔いなく過ごせるだろうか。爽やかに晴れて卒業していけるだろうか。過去には何の未練もなく、前だけを向いていけるだろうか。いやいや、思い出だって大切なんだ。でも、もし思い出だけを頼りに暮らしていったとしたら随分悲しい。これから先、ふとアルバムの写真なんかを見て、ワングルの仲間や、登り続けた色々な山々や山小屋がたまたま自分にとってかけがえのないものだという事、その多大な価値に改めて自分でビックリし、やすらぎを返してみても、もう遠い昔。友を偲んで仰ぐ空である。

いつのまにか私は、愛の行方さえも見失っていたことに気付きもしないで  
ふりむけばやすらぎがあつて  
見守る瞳があつたことを  
さよならの時の中でやっとなと気付くなんて  
長い長い坂道を今登ってゆく  
好きだった海のささやきが  
今は心にしみる  
甦る午後のやすらぎも  
白いページの中に…  
家族的雰囲気、いいじゃないか。馴れ合いと怠慢を削除すれば。温情ムードは、湧いて当然のクラブなんだから。

2年 21 期 山夢路山室晴美

5:07pm ~西田~ (20th)

注. (1) ”く” と ”し” に注意 (2) ”に” と ”して” に注意 (3) ”論” の略字 (4) ”観” の略字 (5) ”義” の略字

小屋に居残っているのは、石垣秀敏・加賀友規・増田敬子・中川・柳沢章博・成島和仁と僕の 7 人。山室晴美・渡部朋子・山田美佐緒・佐藤晶子が帰る男気が高まってしまった（増田にはかんべん）。静かな春小屋になりそう、僕は金欠と小用のため、明日の夜行くらいで東京に帰ろうと思っている。静かな小屋は、今までの経験では、1 年の時の 5 月に、青山と二人で過ごした時が、最たるモノだ。確かあの時は、懐かしの向

井さんと、憧れの井上さんと、指の骨を折っていた\*  
\*さんと5人が入り、3人は火打山へ(5月 pw) 行  
った。残る青山と二人で、酒を飲み、歌い、ジャガイ  
モを焼き、スキーをし、写真を撮り、静かな山小屋の  
ムードに感激していた。今でもやっぱり、山小屋が好  
きだし、OBになっても小屋に来て、スキーしたり、  
三田原や赤倉・妙高・黒姫に登ったり、現役と話した  
り、酒飲んだり、18期～22, 3期の顔見知りの奴と  
pw・合宿・テーマ等々の思い出話をしたいものだ。こ  
れら全て、1冊のスクラップだし、アルバムだ。要は、  
これから何するかだろう。多分、来年の今頃は、ど  
こかの企業に入っているか漏れるか、大学に居残るか、  
とにかく現実の波が押し寄せる、と言うより、現実の  
船に(舟に)乗って、航行する事になる。同じ進むな  
らば、津波も乗り越える指針を見逃さぬ、自分の船に  
乗り込みたいものだ。座礁や岩や…の危険も、無い筈  
ないが、夕陽にキラキラ光る大海原は、キレイだろう  
し、朝日の時に歌う歌は楽しいだろう。問題は、何処  
の島に、どの地に到達するかだ。そこに至る過程での、  
感激や悲しみや、挫折、希望は全て変化であって、日  
常生活のリズムで するに過ぎない。リズムが不可欠  
であることは勿論だが、問題は、その人が生きてどん  
な意味があったかという事じゃないかと思う。最良の  
場合は、世の中に良い効果を与えるであろうし、悪を  
根付けるのが最悪の場合だろう。良い効果を与えるに  
越したことはない。だから、変えるべき事は、何が良  
く(より良く)、何が より悪か という判断の基準だ。  
そこには要素が入ってくる。身近な家族の問題、大学  
の問題、社会的な問題、政治・経済・自然科学等々の、  
今後の方向に関する問題等に向かい、それを考える時  
に出てくるエゴイズムとモラル～社会性～の矛盾。矛  
盾は現存する。これを直視せねば逃げになる。だから、  
考え、学ぶ必要がある。また、そんな学ぶ事が障害さ  
れてはならない。その自由は守られねばならぬものだ  
ろう。その自由は、大学、いや、国家でさえも、個人  
の尊重という視点からみれば、侵害する事は出来ない。  
情報化社会。情報・知識の国家=独占資本による占有  
形態、そのシステムは、簡単にはうち破れるものでは  
ないが、それが、そんな自由を障害するものであれば、  
何とかして打ち破らねばならない。権利の主張だ。司  
法…。法治主義の下では立法化—法律は個人の権利  
の主張になりうる。所謂(狭)法律が、それを束縛す  
る客体の意志に反して立法化されるとき、幽霊ではな  
くて妖怪が現れる。ファシズムという妖怪だ。妖怪は  
誰よりも武力を有し、攻撃的で、非論理的で無責任で  
ある。非論理的故に、良識に基づく討論は無く、ある  
のは訳の分からぬイデオロギーだけで、それを力によ  
って強制し、自分に正直な人を圧殺する。現実を把握  
するように努めたいと思うし、そうすべきと思う。少  
なくとも知っているべきだろう。

今日はかなりガスが出ていて(第4)、しかし、黒姫や  
日光や上越国境の山脈が層雲の上に出ている。また冬  
まで、雪の妙高ともお別れだが、やっぱりピークから  
御来迎を是非見たいものだ。来年春の三田原はどうか  
な?  
**3年 20th 西田雅典**

10:50PM

上述の文に対する読後感! 20th 石垣=英知愛=HI  
その1. つかれた。読めない字が多々あり、文の前後  
関係から判断するしかないの、時間の消費が激しい。  
苦しい!

その2. 前頁の(マル注)はオレが西田に指摘したも  
のであり、それを西田が書いた。

その3. 「幽霊云々」のアンダーラインはオレが書いた。  
何故幽霊ではなくて妖怪なのか? 西田曰く 「共産党  
宣言」の中で、「コミニズムという幽霊云々」があり、  
それを連想するので妖怪にした 仲々難しいのである。

その4. この文章を全て読破したので、加賀君から1  
級を戴きました。因みに加賀君は、5行程度で諦めま  
した。

**3年 20th 石垣秀敏**

PM 11:30 歌蛾

みんな寝てしまいました。

嫌だ、いやだ、イヤダ

どこにも出口がなくて、

笑え、わらえ、ワラエ

それが逃げ口だから、

家で3日位、1人でゴロゴロしていると、ムチャク  
チャ誰かに会いたくて、黄色いシビックのハンドルを握  
って飛び出しています。でも、大勢で3日も一緒に居  
ると、大変疲れます。

いつもニコニコ、スケベな加賀君 **3年 20th 加賀友視**

昭和 54年 3月 10日(土)

7:25am 英知愛 (20th)

今、7人中6人起きています。残りの1人は言わずと  
知れた西田なのです。さて、問題は西田が何時起き  
るかです。ヒントは 11時に寝た事です。西田の予想起  
床時間(シュラフから出る時間)。

加賀: 8時頃、増田: 9時頃、柳沢: 9:15、石垣: 9:30、  
成島: 10:00、中川: 8:30

さあ、西田は如何なる時間に起きるでしょうか?

遂にやりました。…中川さん正解です。8:32 これが  
起床時間です。

**3年 20th 石垣秀敏**

9:10am ~西田~

結局、本日の夜行で帰ることにした。起きる早々、”正解”だの、”もう少し寝てろ！”等々の声が飛んできた。何時までも寝ても仕方がないのは鎌谷町で体験済み。故に、最近では下界でも、なるべく早めに起きるようにしていた。渡部に聞けば、下宿最終の1～2ヶ月の僕の生活は解るでしょう。～太陽と共に起き、月を見て微笑して寝る～ 今年からは春からこうしよう。

3/3の夜、上野を発ち、7泊して、また変えるべき処へ帰る。山に行ったり、山小屋に入ったりするのは、その期間さえ、短いこそすれ、北国から渡ってくる渡り鳥と似ていて、違うのは、僕らが寒いところでも暑い処にでも、どこでも、どんな状況へでも、飛んで行く事くらいだ。渡り鳥たちに、北国等の故郷があるように、僕らには自分の家がある。だからやっぱり、自分の家が無ければ、渡り鳥ではないのだろう。いつかは自分の家へ、疲れた翼を抱いて戻ってくる。

明日以降、下界で待っているものは、船のバルブ作りと、中3に幸いにもなれたであろう子供と、D会の今年のやり方と、新聞の切り抜きと、シニア隊のツッパリ高校生と、ルソーの家庭教師での教え子の恋人と、アルバム作り。

長い間、お世話になりました。長い と言っても1週間位だけど、以前から怠慢性を貫いている自分にとっては、やはり”お世話になりました”です。小屋も、中川や、渡部、その他大勢の連中の力で、随分綺麗になったみたいで悦ばしい。OBが来ても、いつも驚くほど整然とした なえな小屋 を保っていききたいものだ。今年の1年は、僕らの1年の時よりも、動くようだから一安心。

3年 20th 西田雅典

6:10 PM 歌蛾

今、夕飯の支度をしています。

Members ココリン→増田敬子(20th) 餃子を焼いている

パパリン→石垣秀敏(20th) つまみを作っていた  
ゴクリン (“穀潰し”の意) →加賀友規(20th) 小屋日誌を書いている

チロリン→柳沢章博(22th) ゴミ拾い

ナルリン→成島和仁(22th) 餃子焼きの手伝い

3年 20th 加賀友規

昭和 54年 3月 11日(日)

20th 英知愛

3/8の夜の映画話…

対談 (柳&石)

続きは後で

3年 20th 石垣秀敏

同時刻 20th 歌蛾

◎チロル…1年の時は、20th男子がすぐに日和っていた。チロルしか行かなかったかもしれない。しかし今は、殆ど利用されていない。

◎サンアントン…1年の時は時々しか利用されなかったが、現在は殆ど、サンアントンしか利用しない。親切で、野沢菜が無料で出てくるし、第3リフト乗り場まで近いし、風呂には入れてくれるし、洗面室はあるし、国大は顔見知りなんです。

◎スナックイン妙高…今年ワンゲルに初登場。「国大のワンダーフォーゲルの者です。」と言えば、¥100～200安くしてくれる。TVgameもあるよ。

◎モンブラン…当人も1年に2、3回しか行かない。名物は牛井です。

◎トロイカ…1回しか行ったことがなく、大衆食堂の感じ。

◎カレーショップ…地理的に有利な所に有るにも拘わらず、あまりワンゲルでは利用されていない。昼飯にカレーしか無いのが欠点か。

◎グリーンロッジ…地理的に不利。しかし、時々利用される。最近のTVgameが置いてあり、スペース・インベーダーのhighスコアは低く、狙い目。

3年 20th 加賀友規

◇2が発見されました。

◇1. 鍵を閉める

◇2. 窓を閉める

◇3. プロパンの元栓を閉める

◇4. 米缶にガムテープで封をする

◇5. 小屋費を忘れない

◇6. 食器の煮沸を忘れない

◇7. ゴミの処理をする

◇8. 火の用心

◇9. 小屋の片付け

◇10. 羽毛シュラフは火に弱いので要注意。

柳沢の素晴らしいYMCA先輩の加賀(ゴクリン)より、おりこうさんの柳沢とその友達ののぶちゃんとえみちゃんにプレゼント。パパリン、ママリン、ゴクリンより愛を込めて <リフト6回分> 男はダメヨ。でもママリンは男にあげたいそうです。

◇11. 小屋利用記録ノート及び小屋日誌を書くのを忘れない。

◇12. 小屋の炬燵に負けずに予定通り帰ること!

3年 20th 加賀友規

昭和 54年 3月 13日(火)

8:21pm

パパリン、ママリン、ゴクリンへ  
プレゼントのリフト券6回分有り難うございます。但し、のぶちゃんとえみちゃんは来ていませんので、『男はダメ』の言葉を無視して、そのお友達(♂)が明日使わせて戴きます。そのお友達よりママリンへ、有り難うございます、来年も宜しく願いいたします。またこの『小屋の炬燵に負けずに予定通り帰ること!』は、そのお友達が食事に負けたので、予定通り帰りますのでご安心下さい。 のぶちゃんとえみちゃんとそのお友達より

のぶちゃん(♀?) 20才 卒業→勤め人  
えみちゃん(♀) 19才 学生  
そのお友達(♂) 21才 学生&勤め人(何でもやりませ)

皆様へ 昨日愛車が壊れてしまったので、小屋費を50円にまけてください。お願いいたします。(ゴメンナサイ) そのお友達より

13日夕食 カレーチャーハン(肉、野菜を買い忘れた為、明治インドカレー《辛口》を粉にして使用)  
シシヤモ(15cmを1匹)  
福神漬け  
タクワン(残り物)  
パイナップル(4枚)  
紅茶・ホワイト 少々々  
そのお友達(♂)

## 昭和54年3月17日(土)

やっと小屋に戻ってきた事を、炬燵に入り、ブタピカの音を聞きながら、しみじみと味わっています。長い長〜い一日でした。

入小屋は14日、翌日はゲレンデで滑り、昨日16日に黒沢出合まで行ってきました。磯尾氏、啓介氏、私の友人杉本嬢と私、総勢四人。男子は、今日は火打に登り、その間、我々二人の女子は、のんびりと、雪の中のテント生活を楽しんでいました。しかし、男子がテントに戻って、それからが大変。大幅に時間が遅れ、小屋に戻ったのは つい先程、夜になっていました。時間は ここにはとても書けません。証人はOBの植松さんだけ…。

山スキーを着けての山行はなかなかでした。お天気は良いし(特に16日は最高!ト快晴)、ゲレンデとはまた違った趣がありましたね。雪の中のテントも思ったより暖かく、今日のこの辛い帰りさえ無かったら、文句無い山行でした。 でも疲れた。

当分は来られないかも知れないけれど、小屋の周辺をまた積雪期にウロウロしたいですね。

なお、下級生に『プロパンが全く無くなり、石油も殆ど底をついているという状態の小屋にしてしまった事、

深く反省して下さい。』後に入る人の事を考えて下さい。

(A.Y.) 4年19th 弓削厚子

## 昭和54年3月18日(日)

昨日入小屋。誰も居なかった。小屋委員長の溝畑と連絡を取り、石井啓介、磯尾、弓削らが入小屋の情報を掴んで来た。

1. 小屋に着いた時

小屋着 3/17 9:30

小屋の外にスキーが5本立ててある。1本は石井のロシオニュールで1本は磯尾のハイフレックス。溝畑の言っていた通りだ。あれ?ストックが無いぞ。おかしいな?小屋の中に入る。靴棚にスキー靴が四つ。寝ているのかな?外は良い天気なのに。寝て居るんだったらわざわざ起こす事もないな。と思いつつ、朝飯代わりのシュークリームをほおぼる。

10:00 オネンボーさんを構わずゲレンデへ。出で立ち

スキーパンツ:フーバーの紺

アンダーウェア:ノルディカの紺

スキーセーター:ノルディカの赤

羽毛服:天山の赤

12:00 7回ほど滑って再び登場。暑かったのでスキーセーターを脱ぎにやって来たのだが。人声がしない。おかしいなと思いつつ2階へ上がる。誰も居ないのである。三田原へでも行ってるのだな。と思い、セーターを脱ぎ、再びゲレンデへ。

15:45 ゲレンデより帰着。ネムタイ、ネムタイ! シュラフを出して即寝る!

21:30 磯尾らが帰ってくる。火打に行ってきたという。ガッツだなあと感心する、と共にホッと安心する。ここで、石油がない事、そしてプロパンガスが無い事を知らされる。アへ!

2. 小屋には誰も居ない、1人です。 16th 植松磯尾、石井らは今朝6:30に起きて横浜に帰って行きました。

プロパンガスが全く無いので朝飯も食べられず、寝ていけば腹も減らないだろうと思って11時30分迄ウトウトしていました。昨晚から今朝まで吹雪で、ゲレンデは素晴らしく良い状態でしたが、とにかくガスが使えないので、お湯だけで調理が出来るカップヌードル類、そして一人夜を過ごすのに要るお酒を求めに杉野沢まで買い出しに行きました。

小屋に一人で過ごすのは、僕が大学2年か3年の春の時以来で、実に4、5年ぶりです。小屋日誌を読んでもみると、海野がこの2月に1人で小屋にいた様で、面白おかしく、あのしゃべり様を想像しながら読ませて戴きました。私も、する事が無いので、過去を振り返

りつつ、まずはこの一晩目を過ごさせて戴きます。

## OB16th 植松

第1弾：あしたの弘（ヒーロー）：スキー編

そもそもスキーの初めは高2の時のバススキーツアーへの参加でした。その時の板ときたら2m10cmの単板で、ビンディングはカンダハー、スキー靴はセミダブルの編み上げ式のものでした。場所は石打丸山、スキー理論など全く知らず、とにかくボーゲンのみをマスターして帰ってきたのでした。そして2回目が、この妙高国際。当時は冬山訓練と言われるのが、年末年始にかけてあって、僕はそれに参加するつもりで、ジャンナーで「ジャンナー」とジルベレッタを買って、板が8000円、締め具が5500円で、13500円程で、それでも支払いに困ってヒーヒー言っていた。スキー講習会は、僕達の同期の長友（今は竹村夫人13th）が、今は主流のパンタロンのトップモードで、唯1人滑っていた位で、外国製のスキー靴を履いている人は居なかった。私メは、山靴にオーバーシューズで、エッジングなんか出来ない状態で、転倒ばかり。この時のコーチ陣は、小口氏、高木氏でありました。大学2年の冬も妙高国際。この時も山靴で相変わらずヘタクソで、コーチ陣（この時は、小泉氏、中島氏等々）に匙を投げられた感があったのでした。現在の横溝並でした、ハッキリ言って。そして春、何とか山回りだけをモノにせんと頑張るが全くのダメでありました。大学3年の冬、バックル式のスキー靴を買ったのでありました。当時、値段は5000円、今や名を新聞紙上ニセ物ブランド売りで賑わす、あの三越でありました。この時やっと、ようやく、シュテムクリスチャニアをどうにか、どうにか、こうにかモノにしたのでありました。そして春、スキーをヤマハのオールラウンド2に変え、バラレルにこぎ着けたのでありました。ヤマハのあの柔らかいトップ、何とも言えない感じでした。初心者にはグニャグニャのスキーが良い、との結論を得たのでした。そして大学4年の冬、ビンディングはM4に変わり、嘗てのコーチ陣をして「うまくなった」と言わしめたのであります。そして翌夏、スキー靴を現在使用のカベール ダイヤフルに替え、翌々夏、板を現在使用のカザマウィンターハイに替え、キレイなスキーではワングル1を、他人をして言わしめ、今シーズンたまたま同室となったバススキーツアーの人に「ウマイ！」と感嘆させたのであります。

今シーズンは、年末正月に妙高国際、年を明けて1月28日関西スキー場鉢伏高原、翌週2月4日は同じく戸倉スキー場、翌週の連休2月9～13日は野沢温泉、3月に入って4日を挟んでの土日は岩岳、翌週戸倉、そして本日妙高と、7回目のスキーであります。現在の自分のスキーについて 斜面が急な箇所、且不正地だと恐怖感があり、スキーを自在に操作でき

ない、の欠点がある。これを克服するには、つらつら考えるに、スキー靴と板の買い換えにあるのではないかと思う。現在使用のスキー靴は、前傾姿勢を自分で作り、スキーを回していかないとすぐに棒立ちになる。そして現在使用の板は188cm、実質190cmであり、ハイスピードを出すような板である。従って前傾をきつくとれる靴と、ある程度の柔らかさを持った板（180cm）に替えることが出来たら、現在の悩み、壁は克服できるものと信じる。

明日への道. それは前傾と突っ込みだ！

## Coffee Break！

小屋でインスタントでないコーヒーが飲めるなんて信じられない。最近僕はブラック党なのです。

第2弾 あしたの弘（ヒーロー）：お勤め編  
題して「労働基準監督官とは」

日本の行政官庁の中に労働省がある。労働省の中で一般に有名なのが「職業安定局」所謂「職安」である。職安が失業労働者に職場を供給するのに対して、職場の労働者の労働条件を一定以上に保つよう監視する役目を負っているのが、労働基準局である。労働省の「労働基準局」（我々はこれを本省と呼んでいる）は、社会情勢に対応した運営方針や法律、省令等を企画・立案するのに対して、各都道府県に配置された「労働基準局」は、第一線の労働基準監督署をとりまとめ、その総括に当たる。第一線の監督署では、本省一局一署のラインにより作成された計画に従って、管轄の事業場の監督にあたる訳である。そして実際に事業場の監督を行うのが労働基準監督官なのです。

労働三法の一つに「労働基準法」がありますね。その内容について、一般人はあまり知らなさ過ぎる。例えば 1日8時間の労働は原則であるというのは知っていると思いますが、これを越える労働、つまり残業をする場合は、監督署に労働者代表と使用者との間に取り交わした協定を届け出なければならないのです。そして、8時間を越える、所謂残業については、2割5分増の賃金を払え、と法はうたっているのです。使用者がこの様な措置をしていない場合、使用者が労働基準法違反となり、最悪の場合、検察庁へ書類送検される事になります。書類送検の前に、行政措置として、改めるようには是正勧告書を交付しますが、それが是正されない場合、労働基準監督官は、司法警察員として使用者を取り調べ、違反ありと確証されたる時、書類送検する訳です。

また例えば ビルの建築現場で、労働者が落ちたとか言う場合は、労働安全衛生法の違反について調べる訳なのです。

労働基準法、労働安全衛生法は、あらゆる事業場にも適用される訳で、毎日毎日、その行政指導に当たるのが、我々労働基準監督官のお勤めなのです。



お巡りさんは、あらゆる法律の番人：司法警察員。僕達労働基準監督官は、7つの法律の番人：特別司法警察員。でも、その権限はお巡りさんより強く、警部補並の逮捕権があるのです。家宅捜索も出来る。あのロッキードグラマンで証拠品を押収しているのと同じ事も出来るのですよ。

いつもニコニコ労働基準監督官

しかしてその実態は 鬼の司法警察員！

OB16th 植松

## 昭和54年3月19日(月)

8:20am 快晴 16th 植松

3. 小屋の可愛いネズミも凍え死にそうな冷え込みに誘われて起きてみると、外は雲一つ無く快晴でした。相変わらずガスが無いから、火鉢型石油ストーブでお湯を沸かしてカップラーメン。湯が余ったのでモーニングコーヒー、そしてピーナッツチョコ。貧しさの中にも優雅さを忘れない。さあゲレンデへ GO！

4. ゲレンデよりただいま！

しつこい様だけど、プロパンガスが無いのでまず、火鉢型石油ストーブに火をつける。これで練炭の火をおこす。その次はメシだ。カップラーメンに必要なだけの水をやかんに入れるだけでOK！お湯になるまでの間、2階のお掃除。2階は案内きれいだ。ゴミを2、3個と新聞紙を拾っただけでした。お湯が沸きました。今日の夕食は、ミソ八珍と サンマの缶詰、実に簡単！和が加古川の宿舎での自炊生活でも、この様な夕食は無かったのに…ム。

今日のゲレンデは暑かった。風も無く、太陽ギラギラ。午前中迄は、雪質は昨晚の冷え込みのせい、表面がサラサラしていて抜群、汚れのない雪面をシュプールを描いて滑れるなんて、三月に小屋に来て、思いもしなかったし、あの汚れのない雪面に、僕の思いを込めて描くシュプールは、正に芸術。そして快感！

→小屋日誌 No. 17へ

OB16th 植松

小屋日誌No16 完了